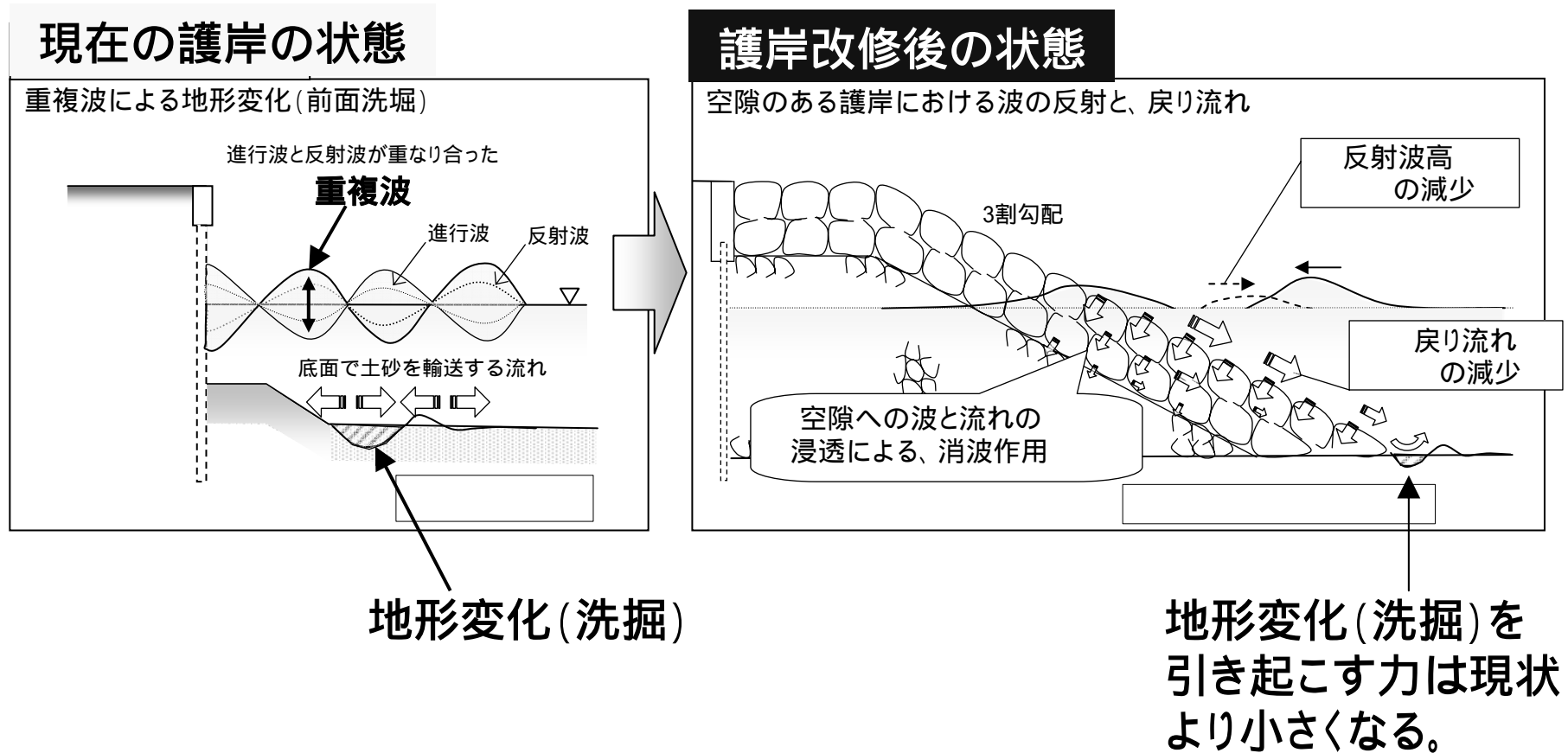


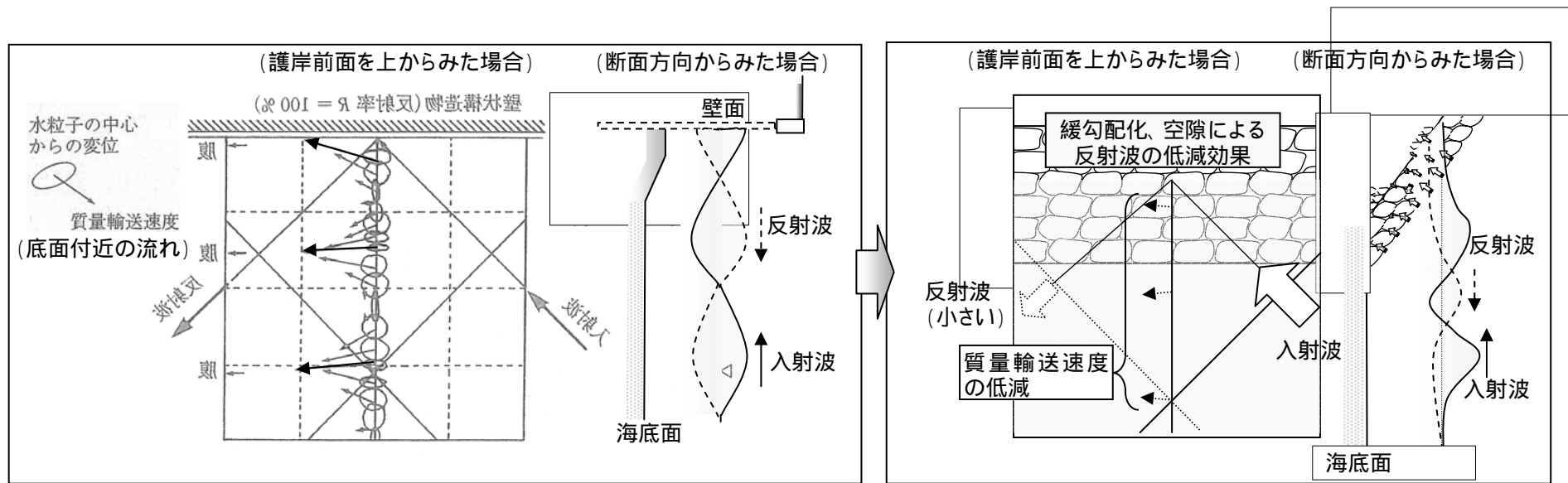
間接的な影響の予測

= 護岸の形状が変わることによる地形や流れの変化の予測
変化に伴う周辺の生物の生息場(ハビタット)への影響予測

(1) 反射波による護岸前面の洗掘(地形変化)の予測

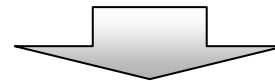


(2) 護岸前面の流れの変化予測



【改修後の護岸前面の反射波による流れの変化の予測結果】

潮位が高く波の高いときに、現況で想定される沿岸方向の流れと比較して、改修後の反射率の低い護岸に、斜めに入射する波は、小さい波となって反射され、沿岸方向の底面の流れは低減される。



以上の検討から、護岸改修後は、返し波(反射波)や護岸沿いの流れによる、対象海岸域への大きな地形変化は生じないことが予測される。

従って、護岸改修によって直接的に影響を受ける護岸直下のハビタットを除き、泥干潟を始めとする周辺域のハビタットには間接的な影響は及びにくいことが予測される。

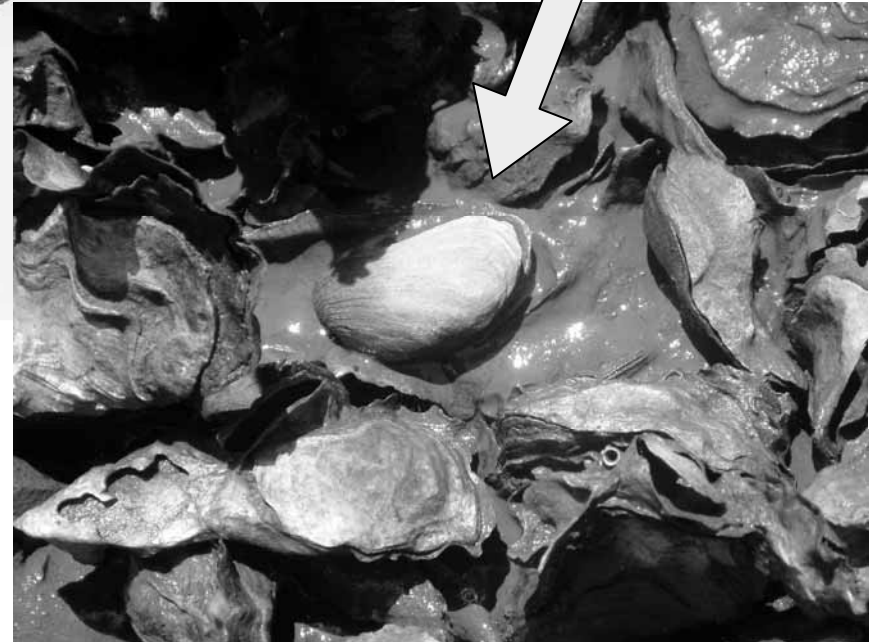
H16～H17年調査で確認された重要種

| 門名 | 種名 | 環境省 レッドデータブック | 千葉県 レッドデータブック | WWF サイエンスレポート |
|---------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 環形動物 | ツバサゴカイ | - | - | 希少 |
| 軟体動物 | カワグチツボ | - | D | 危険 |
| | ウミゴマツボ | - | D | 希少 |
| | アカニシ | - | - | 危険 |
| | ムシロガイ | - | C | - |
| | ヨコイトカケギリ | - | - | 危険 |
| | ウネナシトマヤガイ | - | B | 危険 |
| | オキシジミ | - | C | - |
| | オオノガイ | - | - | 危険 |
| | ソトオリガイ | - | C | 危険 |
| | 節足動物 | マメコブシガニ | - | D |
| ヤマトオサガニ | | - | D | - |
| モクズガニ | | - | D | - |
| 脊椎動物 | ビリンゴ | - | D | - |
| | エドハゼ | 絶滅危惧 類(EN) B | D | - |
| 種子植物 | アマモ | - | D | - |

ウネナシトマヤガイ (二枚貝綱 フナガタガイ科)



マガキに付着する
ウネナシトマヤガイ



千葉県レッドデータブック記載種
ランク：B

重要種の生息状況への影響予測



ウネナシトマヤガイの生息、または生息が考えられるハビタット

順応的管理の中で今後検討していく事項について

1. モニタリングで検証していく項目

護岸直下のハビタットの代償となる石積護岸の潮間帯に
おけるハビタット復元状況

周辺ハビタットへの地形・流況等の物理的影響

ウネナシトマヤガイ等の重要種の再定着

2. モニタリング結果から今後検討していく項目

生物の生息空間及び周辺環境に配慮した護岸の断面の検討

平成17・18年度施工予定区間に関するモニタリング調査項目

塩浜2丁目のH17・H18年度施工区間(約100m)を対象とする。

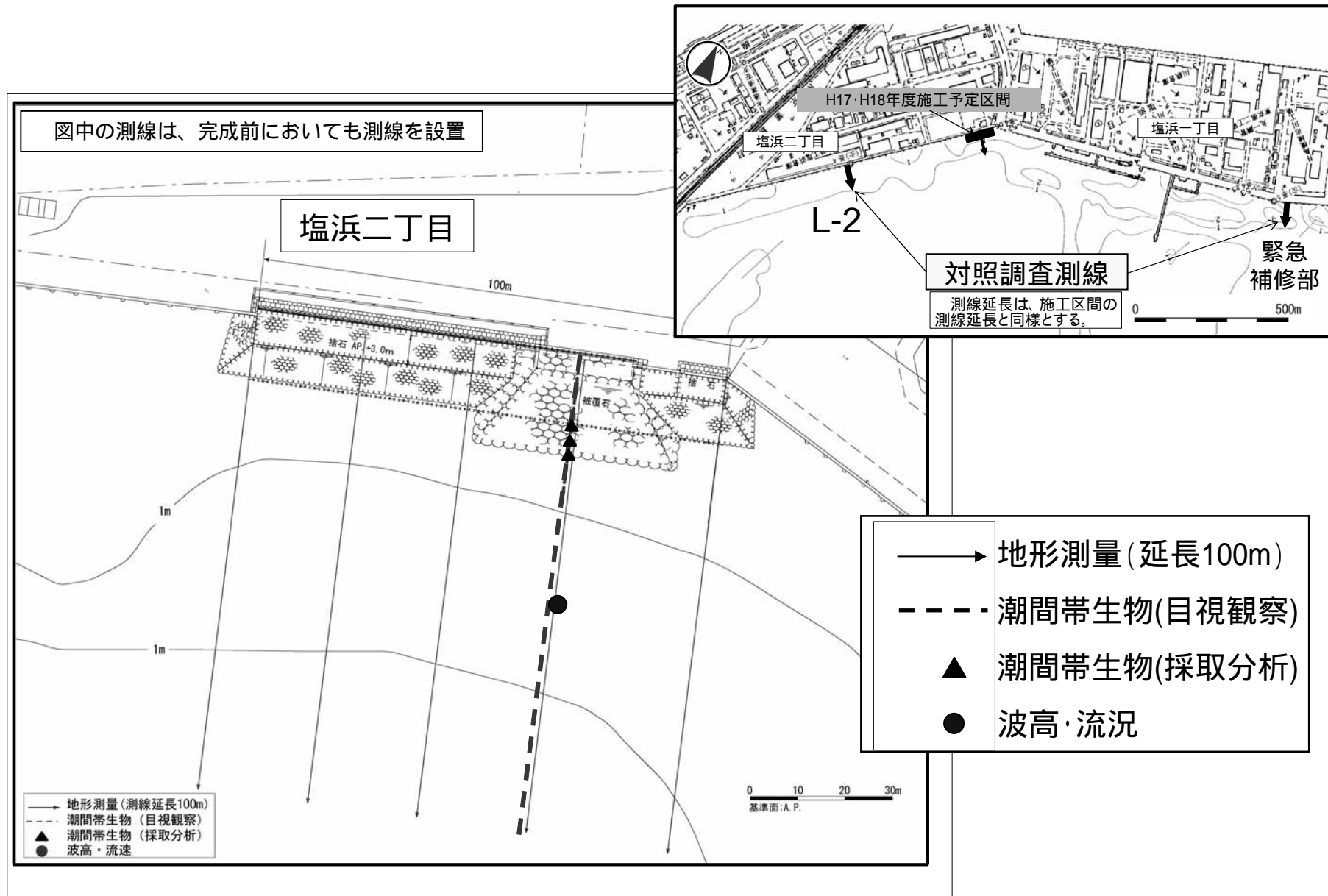
| 項目 | 目的 | 方法 | 時期(間隔) | 数量等 |
|------------|--|-------------------------|--|--|
| 波浪 (流況) | 護岸前面域の波浪(流況)状況変化の把握 ・波高・波向の計測 ・波浪流の計測(海底面上約1m) | 波高・流速計の設置 (30日間連続観測) | 施工前:3月 施工後 秋季:9月 春季:3月 | ・護岸前面の1箇所(30日連続観測) |
| 地形 | ・護岸部の張り出しによる周辺への物理的影響の把握 ・洗掘等による周辺地形の変化の把握等 | 地形測量 | 施工前:3月 施工後 ・秋季:10月 ・春季:4月 | ・既設護岸法線から離岸距離100mまで ・施工範囲100mに対して5測線 (20m間隔) |
| 底質 | 粒径の変化の把握 | 採泥・粒度試験 | 施工前:4月 | 深浅測量の中央の1測線で10m間隔で採泥 (11検体) |
| 生物 | 潮間帯生物の定着状況 調査は公開とし、ライントラセクト法による観察は市民との協働で行うものとする。 | ライントラセクト法による観察 | 施工前 : 4月 施工後1ヶ月:10月 施工後3ヶ月:1月 施工後7ヶ月:4月 施工後1年 : 9月 | ・施工区の中央部に1測線,対照区として測線L-2の1測線(100m)及び塩浜1丁目の応急補修工事区間の計3測線 ・石積護岸部(斜面上): 方形枠(50cm×50cm)による連続目視観察 ・のり先から離岸距離10mまで1m間隔 ・のり先から離岸距離10~100mは10m間隔 |
| | | 採取分析 | | |
| 景観 | ・周辺域との景観の調和 ・石積へのごみの堆積状況の把握 | 委員、一般市民参加による見学会形式 | 施工後数回 | 実施時期については、完成後の経過時間と台風後などの状況を踏まえて決定する。 |

注1:各調査の継続年については、モニタリング結果を検証しながら決定していくものとする。

注2:実施時期(間隔)については、状況(現地天候、予算等)により若干の変更を行う場合がある。

今回の
実施項目

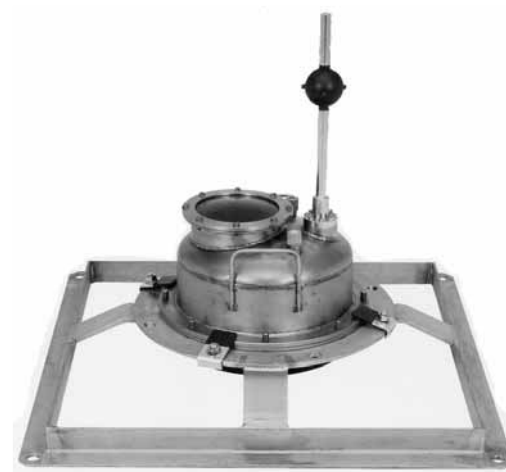
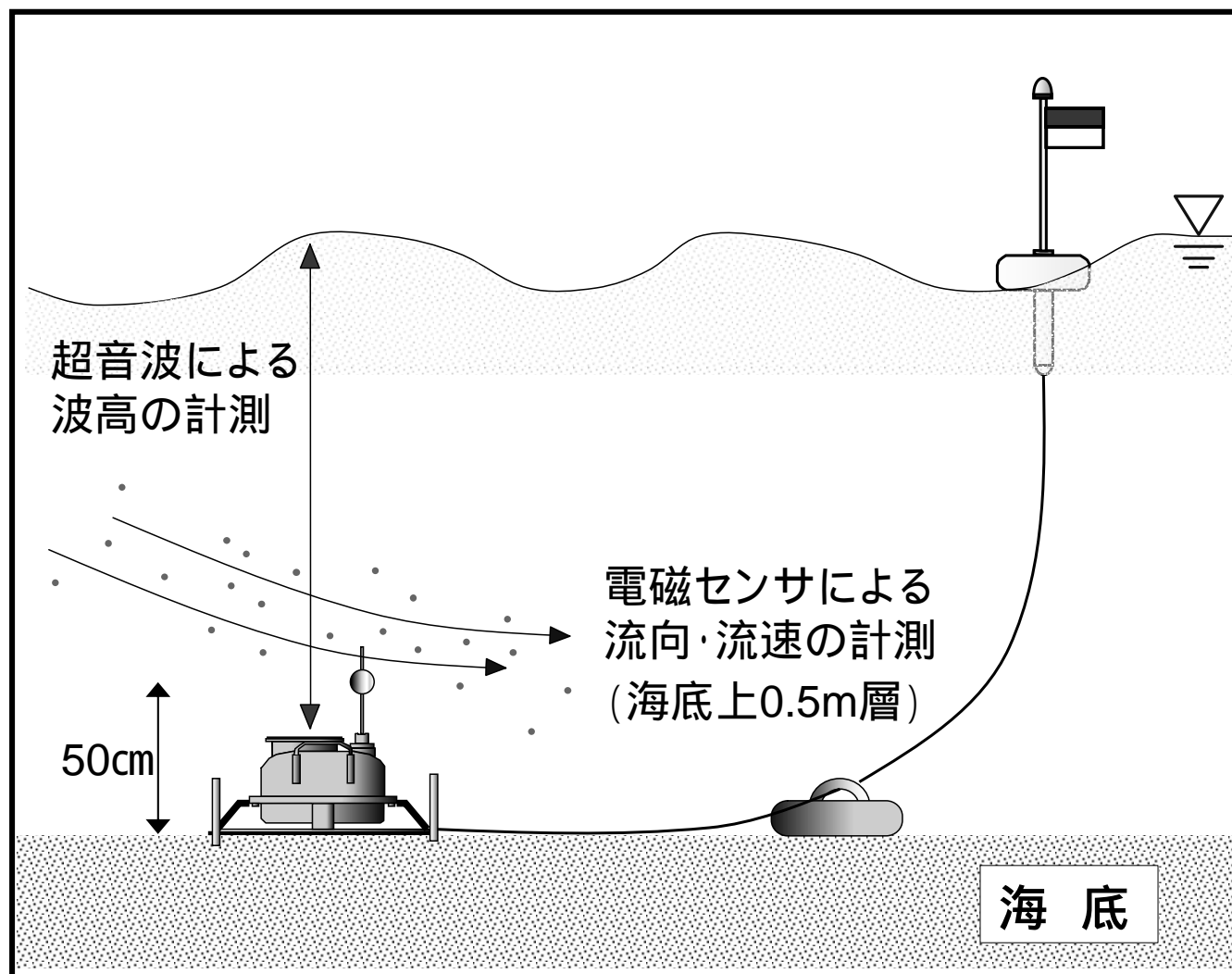
モニタリング調査位置



1. 波 浪・流 況

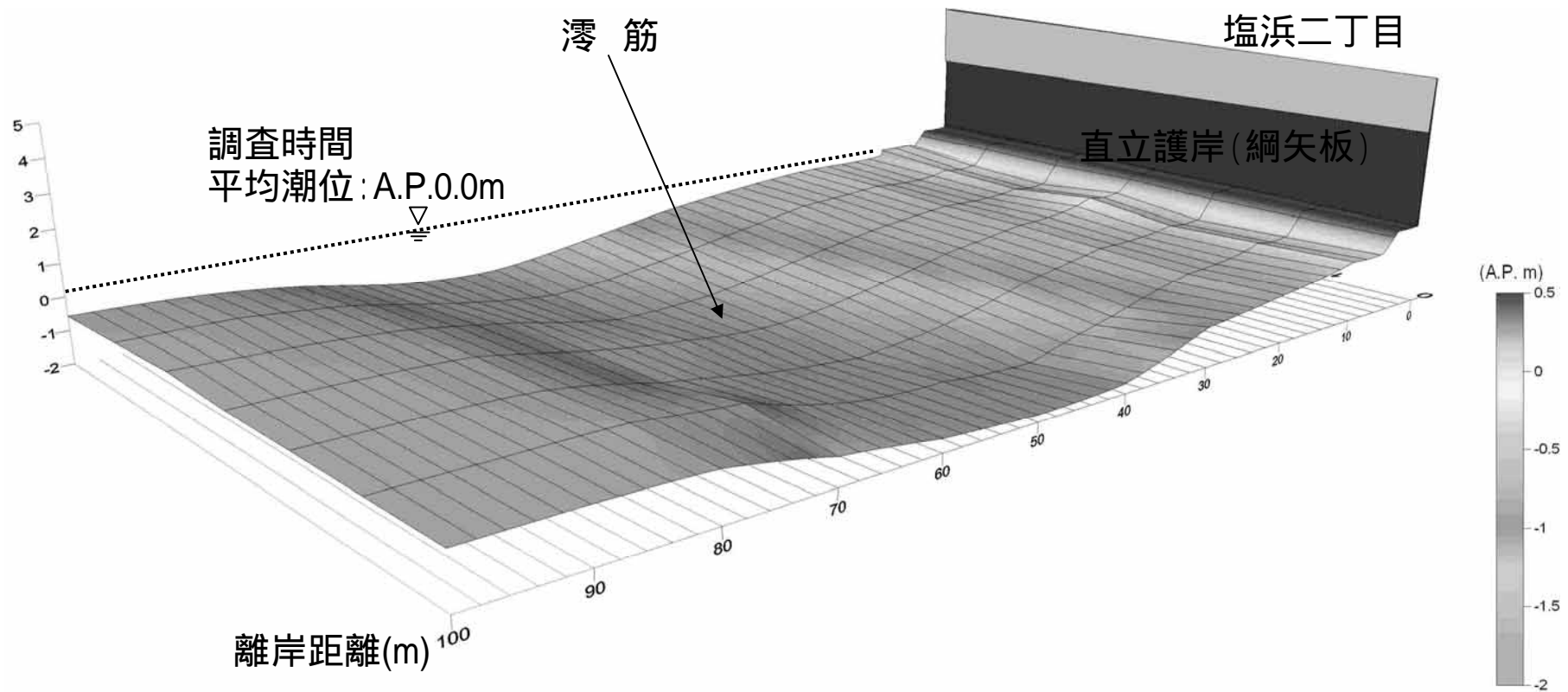
調査項目: 工事予定区周辺の波高・波向、海底上0.5m層における流向・流速

調査期間: 平成18年3月2日 ~ 4月3日 (30日間連続観測)



波高流速計
DL-2型

2. 地形調査結果：工事予定区の海底地形の詳細



作図の都合上、縦横比の縦を強調してあります。

3. 潮間帯生物観察結果 工事予定区における潮間帯生物の分布状況

